

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : 1-ヘキサノールドライH
パーツNo. : D312142-1

会社情報

供給社名 : 株式会社 HIRANUMA
住 所 : 〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町 1739
担当部門 : 品質保証部
電話番号 : (0120)47-6411 FAX 番号 : (029)240-0381

製造社名 : 関東化学株式会社
住 所 : 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1

推奨用途 : 試験研究用
使用上の制限 : 推奨用途以外で使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
引火性液体 : 区分3

健康有害性
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A

環境有害性
水生環境有害性 短期（急性） : 区分3
水生環境有害性 長期（慢性） : 区分3

絵表示またはシンボル



注意喚起語 : 警告
危険有害性情報 : 引火性液体及び蒸気
皮膚刺激

強い眼刺激
水生生物に有害
長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

：熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地しアースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用する。
静電気放電に対する措置を講ずること。
取り扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

：皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
特別な処置が必要である（このラベルの補足的な応急措置の説明を見よ）。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

：換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

廃棄

：内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

：物質

別名

：1-ヘキサノール、1-ヒドロキシヘキサン

化学名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
n-ヘキシルアルコール	100	C ₆ H ₁₄ O	2-217	既存化学物質	111-27-3

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合：直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。
- 皮膚に付着した場合：直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。
- 眼に入った場合：直ちに流水で15分以上洗い流し、必要に応じて眼科医の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合：揮発性があるので、吐き出させるとかえって肺の吸引などの危険性が増す。速やかに医師の処置を受ける。水で口の中を洗わせてもよい。
- 応急措置をする者の保護：救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：粉末化学消火剤、炭酸ガス、乾燥砂、耐アルコール性泡
- 使ってはならない消火剤：水、普通の泡消火器
- 消火方法：速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。
- 消火作業は、風上から行う。
- 初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、耐アルコール性の泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。
- 消火を行う者の保護：呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 一般的措置：作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。露出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項：流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め、浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法：漏洩した液はけいそう土などに吸着させて、空容器に回収する。漏洩した場所は、水で十分に洗い流す。
- 二次災害の防止策：付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策：皮膚に付いたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。火気厳禁。
作業場所の換気を十分行う。
- 安全取扱注意事項：みだりにエアロゾル、蒸気が発生しないように取扱う。
酸化剤と接触させない。

保管

- 安全な保管条件：容器は密栓して冷暗所に保管する。
- 安全な容器包装材料：ガラス、ふっ素樹脂、ステンレス。
塩化ビニル樹脂、アクリル樹脂、ポリスチレンなどは使用しない。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
産衛学会 許容濃度	設定されていない
ACGIH TWA	設定されていない

- 設備対策：取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。

保護具

- 呼吸器用保護具：必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）または送気マスク
- 手の保護具：不浸透性保護手袋
- 眼の保護具：ゴーグル型保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具：保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態：液体
- 色：無色
- 臭い：刺激臭
- pH：データなし

融点	: -45 °C
凝固点	: データなし
沸点	: 155 °C
引火点	: 60 °C (C.C.)
自然発火点	: 313 °C
分解温度	: データなし
可燃性	: 引火性
蒸気圧	: 124 Pa (25 °C)
相対密度	: 0.817 - 0.823 (20/20°C)
密度	: データなし
相対ガス密度	: 3.52
溶解度	: 有機溶媒：エタノール、エーテルに易溶。 水：5900 mg/L (25°C)
n-オクタノール/水分配係数(log Pow)	: 1.8
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率：	: 3.64 mm ² /s (40 °C)
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 酸化剤と接触すると反応することがある。
化学的安定性	: 通常条件で安定である。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下では安定。
避けるべき条件	: 日光、熱。
混触危険物質	: 酸化剤。
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: 区分に該当しない ラット LD50=4000mg/kg
急性毒性（経皮）	: 区分に該当しない ウサギ LD50=2538mg/kg
急性毒性（吸入）	: 区分に該当しない（気体） 分類できない（蒸気） 区分に該当しない（粉じん、ミスト） ラット LC50>10.5 mg/L/4h
皮膚腐食性／刺激性	: 皮膚刺激（区分2）

ヒトのパッチテストにおいて4時間以上の暴露により陽性対照と比較して非常に低い刺激性を示した。ウサギのOECD TG 404に準拠した試験において「中程度の刺激性」を示したこと、また投与量や投与期間は不明ではあるが、「中等度の刺激性」や「紅斑、およびグレード1に似た浮腫」を示したことから区分2とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

：強い眼刺激（区分2A）

ウサギの試験において滴下後72時間における平均スコア値が角膜混濁; 2, 虹彩炎; 1.25, 結膜発赤; 2.5, 結膜浮腫; 2.5であり、21日後には完全に回復している。またウサギを用いた試験（OECD TG 405）においてModerateとされ、また、他のウサギを用いた試験において5 %溶液で重度な眼のびらん、および1 %溶液において重度の刺激性としていることから、区分2Aとした。

呼吸器感作性

：分類できない

皮膚感作性

：区分に該当しない

ヒトにおけるパッチテストおよびモルモットへの皮膚感作試験（Magnusson and Kligman法）において感作性を示さないとの記述があることから、区分に該当しないとした。

生殖細胞変異原性

：分類できない

in vivo変異原性試験のデータがないことより分類できないとした。

発がん性

：分類できない

生殖毒性

：分類できない

発生毒性について、ラットの器官形成期の経口投与により、親動物に臨床的症状および体重低下が見られたが、胚毒性および催奇形性は認められなかった。しかし親動物の性機能、生殖能に関するデータがないことから、データ不足により分類できないとした。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

：分離できない

ラットの強制経口試験において440 mg/kg（雄）、90 mg/kg（雌）の用量において腎皮質が混濁腫脹を伴ったうっ血とあるが、詳細なデータがなく、分類できないとした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

：分類できない

ラットの混餌による3週間試験のガイダンスの範囲値を超える330 mg/kg bw（90日換算）の用量で血中脂質の変化など軽微な

変化以外に影響は見られず、またラットの混餌による13週間の試験のNOAELは250 mg/kg bw、LOAELは500 mg/kg bwで、いずれもガイダンス値を超える用量であることから区分外（経口）に該当するが、他経路でのデータがなくデータ不足で分類できないとした。

誤えん有害性 : 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）

: 水生生物に有害（区分3）

魚類（ファットヘッドミノー） LC50=97.7mg/L/96h

水生環境有害性 長期（慢性）

: 長期継続的影響によって水生生物に有害（区分3）

残留性・分解性

追加情報なし

生体蓄積性

低濃縮性

log Pow : 1.8

土壤中の移動性

追加情報なし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国内規制

海上輸送（IMDG）

国連番号（IMDG） : 2282

正式品名（IMDG） : HEXANOLS

容器等級（IMDG） : III

輸送危険物分類（IMDG）

: 3

航空輸送 (IATA)

国連分類 (IATA) : 2282
正式品名 (IATA) : Hexanols
容器等級 (IATA) : III
輸送危険物分類 (IATA)
: 3

海洋汚染物質 : 非該当

MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質

汚染物質カテゴリー
: Y

国内規制

陸上規制 : 消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。
海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
その他の情報 : 補足情報なし
緊急時応急措置指針番号
: 129

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法 : 危険物・引火性の物（施行令別表第 1 第 4 号）
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 0 条別表第 2）（2026 年 4 月 1 日以降）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条の 2 第 1 項、施行令第 1 8 条の 2 第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 4 条の 2 別表第 2）（2026 年 4 月 1 日以降）
1-ヘキサノール

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 第 4 類引火性液体、第二石油類非水溶性液体（法第 2 条第 7 項危険物別表第 1・第 4 類）

海洋汚染防止法 : 有害液体物質（Y 類物質）（施行令別表第 1）

船舶安全法 : 引火性液体類（危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1）

航空法 : 引火性液体（施行規則第 1 9 4 条危険物告示別表第 1）

港則法 : その他の危険物・引火性液体類（法第 2 1 条第 2 項、規則第 1 2 条、危険物の種類を定める告示別表）

道路法 : 車両の通行の制限（施行令第 1 9 条の 1 3、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第 1 2 号・別表第 2）

化学物質管理促進法
(PRTR法) : 非該当

16. その他の情報

参考文献および参照ホームページ等

- 1) 社内資料（製造委託先提供のSDS）
- 2) NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構

* この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の実施を前提としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。組成及び成分情報に記載している濃度又は濃度範囲は製造時の配合量を元に算出した一例であり、製品中の濃度を保証するものではありません。また、端数処理により合計値が100%とならない場合があります。この安全データシート(SDS)は、JIS Z7253 に基づいて作成しております。